

令和6年度

教育研究活動等に係るデータ分析による

# 自己点検・評価報告書

令和6年6月

福井大学

全学内部質保証委員会

## 目 次

1. 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価 . . . . .	1
2. I R室員一覧 . . . . .	5
3. 自己点検・評価結果 . . . . .	6
4. 自己点検・評価結果（自己点検・評価シート） . . . . .	8
5. 分析基本データ集 . . . . .	26
6. 特徴データ一覧とその達成状況 . . . . .	46

## 1. 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価

### 【実施に当たり】

「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」は、福井大学内部質保証規程（令和3年1月27日 福大規程第1号）第8条の規定に基づき、福井大学全学自己点検・評価実施要項（令和3年3月22日 学長裁定）により実施するものである。

本自己点検・評価は、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価として、IR室（経営戦略課）で収集しているファクトブックのデータを分析し、現状や中期目標・中期計画の進捗状況など本学の教育研究活動等を、毎年度、自己点検・評価するものである。分析するデータは、ファクトブックに収納されたデータの内、①大学の現状等を示す「基本データ」の中から適切なデータ（以下、「分析基本データ」という）、②第4期の教育研究活動等の中心として中期計画の進捗を示す定量的な評価指標「特徴データ」とする。

「分析基本データ」は、基本データの中から、①設置基準等、法令で定められている事項、②法人評価・認証評価で確認が求められる事項、③社会的な要請を含め、大学として目標を定めている事項、④その他、共通指標等の主な事項など、自己点検できるものを精選している（別紙）。その際、データの定義の全学的な統一、関係データの組織的な収集などに十分配慮する。他方、「特徴データ」は、第4期中期計画に係る評価指標の中から、全ての定量的な評価指標から構成されている。

データの分析においては、其々のデータにあらかじめ設定した評価基準等（目標値を含む）に基づき、“評価基準等を達成できたか/満たしているか”の観点から自己点検・評価を行う。この自己点検・評価の結果に基づき、必要に応じて、改善に向けた方策等を策定する。これら評価結果に基づき、関係部署等は、中期計画の達成を含め改善・向上に向けた取組みを実施する。このように、本自己点検・評価は点検・評価・改善のプロセスを形成しており、「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」として、全学自己点検・評価の一環として位置付ける。なお、「特徴データ」の自己点検・評価は、別途、法人評価対応部会が実施する全学内部質保証の一環とした「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」の中で実施する。

### 【第4期中期目標・計画への関与】

本自己点検・評価は、以下の第4期中期目標・中期計画に関与している。

#### 中期目標

- 14) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを生かしたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。

#### 中期計画

- 14)-1 エビデンスベースによる法人運営を目指し、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価を実施し、教育研究活動等の質の改善状況をステークホルダーに分かりやすく発信していく。

評価指標 (達成水準を含むこと)	14-1-A 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を毎年度実施し、開示している。
---------------------	---

本自己点検・評価とその結果の公表は、中期計画であげた「IR 機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価の実施」に相当するものであり、評価指標の達成に向け、毎年度実施することとしている。

### 【実施手順等】

分析基本データに係る自己点検・評価は、基本的に、「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価の実施ガイドライン」に沿って、以下のように実施した。なお、特徴データに係る自己点検・評価は、「中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価の実施ガイドライン」に沿って、法人評価対応部会が別途実施した。

#### (1) 実施体制

分析基本データについて、IR 室（経営戦略課）がデータ収集・整理等を、評価担当理事が評価を、IR 室員が確認等を担当した。今回分析したデータは別表（分析基本データ集）に示す。

#### (2) 実施方法

（分析基本データの定義と評価対象データ）

員 数 群：当該年度5月1日現在の員数データ（当該年度入学者に関する入試データを含む）

実 績 群：前年度実績データ

員数群-補：当該年度11月1日現在の員数データ

実績群-補：前年度実績のうち追って集計が必要なデータ

員数群および実績群のデータは6月末までに、員数群-補および実績群-補のデータは12月までに自己点検・評価する。

（分析基本データの自己点検・評価）

- ① 経営戦略課は、分析基本データを収集し、それぞれの評価基準等とともに分析基本データ集として整理した。
- ② 評価担当理事は、上記①のデータを確認し、評価基準等に基づき其々のデータを「データ分析による自己点検・評価シート（以下「自己点検・評価シート」という）」を活用して評価する（評点を付す）とともに、必要に応じてコメント及び特記事項（優れている点／改善を要する点）を記載した。

なお、評点は以下の3段階とした

1. 評価基準等を満たしている
2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
3. 評価基準等を満たしていない

- ③ IR 室員は、上記の結果を確認し、必要に応じてコメント、特記事項を記載した。

### (3) 自己点検・評価結果等の決定

- ① IR室（経営戦略課）は、自己点検・評価シートを取り纏め、「令和6年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価報告書（以下「報告書」という）」を作成し、全学内部質保証委員会に提出した。なお、員数群-補および実績群-補のデータ分析の結果は、補刷として後日提出する。
- ② 全学内部質保証委員会は、自己点検・評価結果等を審議した。
- ③ 全学内部質保証委員会では重大な課題や改善事項等がないと判断し学長がそれを認めたので、必要な法定会議へは報告することとした。

### (4) 改善に向けた取組

- ① 学長は、決定した自己点検・評価結果等を、教育研究評議会等での報告を通じて周知する。
- ② 関係部局等は、上記の自己点検・評価結果等に基づき、改善等を図る。

### (5) 評価結果等の公表等

- ① 上記(3)で評価結果等が決定された後、報告書をHP等で公表する。
- ② 報告書は経営協議会に報告し、学外委員からの意見聴取を行うこととしている。

### 【特徴データ】

中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価で別途実施した特徴データに係る自己点検・評価結果は、特徴データを一覧として報告書に添付した。詳細は、「令和6年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価報告書」を参照のこと。

### 【自己点検・評価実施期間】

本自己点検・評価は、令和6年5月から令和6年6月に実施した。

### 【評価項目】

別紙「分析基本データ一覧とその評点」のとおり。

### 【各データの基準時】

員数群：令和6年5月1日現在

実績群：令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 別紙 分析基本データ一覧とその評点

分類	基本データ（項目）		粒度	基準等	対象年度	実績（前年度） ／員数（今年度）	当該年度の評点	備考
教育	1-①	志願者数・受験者数	学部・学科 研究科・課程	過去5年間の平均以上	当該年度5月現在 (春期)	員数群	2	
	1-②	入学定員充足率 ・平均入学定員充足率	学部・学科 研究科・課程	認証評価等の基準 (目安:100%以上、130% 未満)	当該年度5月現在	員数群	2	モニタリング項目
	1-②'				及び11月現在 (秋期を含む)	員数群一補		
	1-③	収容定員充足率（未充足の 状況）	学部・学科 研究科・課程	法人評価等の基準 (90%以上；医・工・教研・ 医研博・工研 80%以上；教・国・医研修・ 国研)	当該年度5月現在	員数群	2	モニタリング項目
	1-④	収容定員超過率	学部 研究科	法人評価等の基準 (110%)	当該年度5月現在	員数群	1	モニタリング項目
	1-⑤	授業外学修時間	全学・学部	第3期末より増 (12.5時間)	前年度	実績群	3	
	1-⑥	標準修業年限内卒業・修了 率	各部局	本学独自の基準 (目安： 教研：85% 工研前：82.5% 教・医・工・国研：80% 国：70% 工研後：50% 医研：-)	前年度	実績群	2	共通指標 モニタリング項目
	1-⑦	標準修業年限×1.5年以内 での卒業・修了率	各部局	法人評価等の基準 (目安： 教・医・工・国：90%以上 教研・医研修・工研前・国 研：85%以上 医研博・工研後：70%以 上)	前年度	実績群	2	モニタリング項目
	1-⑧	学位授与数（博士）	医学系・工学	前年度より増	前年度	実績群	1	共通指標
1-⑨	就職率	全学・部局	高い水準を維持 (97.2%)	前年度	実績群	1	特徴データと重複 (2)-1-B他	
研究	2-①	研究論文数（年間）（教員 当たりの業績数）	全学	第3期平均値より増	前年度	実績群一補		共通指標 3年間の平均ではなく、1年 ごとのデータを取り扱う
	2-②	科研費採択件数・内定金額 （教員当たりの獲得額）	全学	第3期平均値より増	前年度	実績群	3	研究推進課から提供のデータ とし、共通指標数値とは異なる 可能性あり
	2-③	外部資金獲得状況:総額・ 内訳別総額（教員当たりの 受託・共同研究受入額）	全学	第3期平均値より増	前年度	実績群	1	研究推進課から提供のデータ とし、共通指標数値とは異なる 可能性あり
グローバル	3-①	外国人留学生数	全学	設定した目標値 (第3期の正規留学生数の 年平均(118名)より増加)	前年度	実績群	3	特徴データと重複 (7)-1-A
	3-②	海外派遣学生数	全学	設定した目標値 (第3期のJASSO海外留学 支援制度の支援実績の年 平均(171名)より増加)	前年度	実績群	3	
教員数	4-①	基幹教員数・専任教員数	学部・学科 研究科・課程	設置基準	当該年度5月現在	員数群	1	
	4-②	研究指導・補助教員数	学部・学科 研究科・課程	設置基準	当該年度5月現在	員数群	1	
	4-③	若手教員採用比率	人事で設定した 粒度	人事で策定した目標値 (若手教員の採用比率： 年平均60%以上)	前年度	実績群	3	共通指標 「福井大学における教員の 総合的な人事計画」に 掲げる目標値（この計画にお ける若手教員：当該年度の年度末 における年齢が40歳未満の者）
	4-④	女性教員比率	人事で設定した 粒度	人事で策定した目標値 (R8年度末までの目標 値：22%以上)	当該年度5月現在	員数群	3	「福井大学一般事業主行 動計画」に掲げる目標値

- 当該年度の評点
1. 評価基準等を満たしている
  2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
  3. 評価基準等を満たしていない

## 2. IR室員一覧

令和6年4月1日

	役職・所属	氏名	備考
室長	理事（教育・評価担当）副学長	安田 年博	
副室長	参与（特命職員）	窪田 昭一	
室員	学長補佐（工学部 教授）	山田 徳史	（主に教育・評価担当）
	学長補佐（医学部 教授）	定 清直	（主に研究担当）
	学長補佐（工学部 教授）	小嶋 啓介	（主に社会貢献担当）
	副学長（工学部 教授）	永井 二郎	（主にグローバル担当）
	教育学部 教授	浅原 雅浩	（主に人文社会領域担当）
	経営戦略課 課長補佐	林 大剛	全学 IR
	財務課 主査	村中 良成	財務 IR
	教務課 主査	安本 聖司	教学 IR
	松岡キャンパス学務課 主査	山本 紘子	教学 IR
	研究推進課 課長補佐	古市 康博	研究 IR
松岡キャンパス研究推進課 課長補佐	中辻 圭恵	研究 IR	

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

### 3. 自己点検・評価結果

本年度の自己点検・評価結果は以下のものである。

#### (1) 分析基本データ

基本データ総数	評点 <sup>1)</sup>			該当せず <sup>2)</sup>
	1	2	3	
19	6	5	6	2

- 1) 評点 1. 評価基準等を満たしている  
2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない  
3. 評価基準等を満たしていない
- 2) 員数・実績群一補

評価結果は別紙「分析基本データ一覧とその評点」のとおり。

「一部の部局で、評価基準等を満たしていない」

- ・1-① 志願者数・受験者数
- ・1-② 入学定員充足率・平均入学定員充足率
- ・1-③ 収容定員充足率（未充足の状況）
- ・1-⑥ 標準修業年限内卒業・修了率
- ・1-⑦ 標準修業年限X1.5年以内での卒業・修了率

「評価基準等を満たしていない」

- ・1-⑤ 授業外学修時間
- ・2-② 科研費採択件数・内定金額（教員当たりの獲得額）
- ・3-① 外国人留学生数
- ・3-② 海外派遣学生数
- ・4-③ 若手教員採用比率
- ・4-④ 女性教員比率

本年度は、上記のように、基本データのうち、5データは「一部の部局で、評価基準等を満たしていない」、6データは「評価基準等を満たしていない」と判定された。なお、昨年度は「評価基準等を満たしていない」が5データであり、本年度も継続して評価基準等を満たしておらず、改善されていないものもある。これらデータの中には法人評価・認証評価で確認が求められる事項や共通指標に該当するものもあり、それぞれ、評価基準等を満たすよう、改善に向けた更なる取組が求められる。



## (2) 特徴データ<sup>1)</sup>

定量的な評価指標総数 <sup>2)</sup>	目標値を達成	目標値が未達成	該当せず <sup>3)</sup>
65	54	7	4

1) 「令和6年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価」より抜粋

2) 評価指標の中に複数の指標がある場合、別個の取り扱いとした

3) 当該年度に取組の予定がないもの、基準値を設定することとしているもの

評価結果は「特徴データ一覧とその達成状況」のとおり。

本年度、設定した当該年度の目標値を達成していない評価指標は、次のとおりである。

- ・(1)-3-A 地域医療を指導できる総合診療・総合内科医の輩出人数
- ・(3)-2-B 多職種連携教育科目数
- ・(6)-3-A 地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数
- ・(6)-3-B 地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度（看護学科）
- ・(7)-1-A 正規留学生数
- ・(8)-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数(特許出願数と特許の権利化件数の合計)
- ・(13)-1-A 外部資金の獲得に関する新たな取組件数

次年度の目標値を達成できるよう、向上に向けた取組が求められる。なお、目標値未達成が昨年度3指標から7指標に増加していることは特記される。

#### 4. 自己点検・評価結果（自己点検・評価シート）

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教育
基本データ項目：	1-① 志願者数・受験者数 (春期)
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント	教育学部（学校教育課程）、医学部（看護学科）、工学部（応用物理学科）、医学系研究科（看護学専攻）、工学研究科（産業創成工学専攻、総合創成工学専攻）が、志願者数及び受験者数とも基準を満たしていない。また、工学部（電気電子情報工学科）、国際地域学部（国際地域学科）が、受験者数の基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準等を満たさない部局等については、特に、志願者増に向けた改善が求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教育
基本データ項目：	1-② 入学定員充足率・平均入学定員充足率 (春期)
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント	医学系研究科（看護学専攻、統合先進医学専攻）、工学研究科（総合創成工学専攻）、国際地域マネジメント研究科（国際地域マネジメント専攻）が、入学定員充足率及び平均入学定員充足率とも基準を満たしていない。また、工学研究科（知識社会基盤工学専攻）が、入学定員充足率の基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準等を満たさない部局等については、入学定員確保に向けた改善が求められる。なお、医学系研究科（統合先進医学専攻）、工学研究科（総合創成工学専攻）については、10月入学において充足を図られたい。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教育
基本データ項目：	1-③ 収容定員充足率（未充足の状況）
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント	国際地域マネジメント研究科（国際地域マネジメント専攻）が、収容定員充足率の基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準等を満たさない部局等については、収容定員確保に向けた改善が求められる。特に、法人評価では、直接の評価対象となるデータであり（評価が下げられることが危惧される）、少なくとも本年度以降の改善が強く望まれる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教育
基本データ項目：	1-④ 収容定員超過率
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教育
基本データ項目：	1-⑤ 授業外学修時間
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	1年次と3年次の授業外学修時間の全学平均値は8.6時間となり、目標値(12.5時間)に達していない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、各学年において、授業外学修時間の増加に向けた改善が求められる。なお、基準値(第3期末)と今回の調査結果は調査方法が異なるが、昨年度よりも時間数は減少しており、基準を満たすよう授業外学修時間の増加に向けた方策等の策定・実施が必要である。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教育
基本データ項目：	1-⑥ 標準修業年限内卒業・修了率
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント	工学部、工学研究科（博士後期課程）が、標準修業年限内卒業・修了率の基準を満たしていない。博士課程の当該データは共通指標となっており、より高い実績値が望まれる。なお、今後、当該データは情報開示として義務付けられるものとなることにも配慮頂きたい。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準を満たさない部局等については、標準修業年限内卒業・修了率の増加に向けた改善が求められる。
備考	



令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教育
基本データ項目：	1-⑦ 標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント	医学系研究科（博士課程）、工学研究科（博士後期課程）が、標準修業年限×1.5年内卒業・修了率の基準を満たしていない。特に、医学系研究科（博士課程）は目標値を大きく下回っている。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準を満たさない部局等については、標準修業年限×1.5年内卒業・修了率の増加に向けた改善が求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教育
基本データ項目：	1-⑧ 学位授与数（博士）
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	目標値は達しているが、他機関に比べ学位授与数は少ない。共通指標ともなっており、授与数の向上が強く望まれる。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教育
基本データ項目：	1-⑨ 就職率
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	研究
基本データ項目：	2-② 科研費採択件数・内定金額（教員当たりの獲得額）
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	科研費の教員当たりの獲得額は364,543円となり、目標値(429,428円)に達していない。さらに、昨年度より獲得額は低下している。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	当該基本データは各部局等の合計値として算定しているが、この向上には各部局等における科研費の採択増加に向けた改善が求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	研究
基本データ項目：	2-③ 外部資金獲得状況：総額・内訳別総額 (教員当たりの受託・共同研究受入額)
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	グローバル
基本データ項目：	3-① 外国人留学生数
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	正規留学生数は103名となり、目標値（118名）に達していないので、正規留学生増加のための取組が求められる。なかでも、工学部での正規留学生数が減少している。このデータは中期計画に係る評価指標ともなっており、来年度には目標値の達成をお願いしたい。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	法人評価において、評価指標の目標未達成によって機械的に評価点が下げられることとなっている。そこで、コロナウイルス感染症もだいぶ鎮静化されており、正規留学生数の増加に向けた改善が強く求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	グローバル
基本データ項目：	3-② 海外派遣学生数
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	海外派遣学生数は151名となり、目標値（171名）に達していない。コロナウイルス感染症も鎮静化し、海外派遣学生数は年々増加傾向にあるが、目標値には達していないので、更なる増加に向けた取組が求められる。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	コロナウイルス感染症もだいぶ鎮静化されており、海外派遣学生数の増加に向けた改善が求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教員数
基本データ項目：	4-① 基幹教員数・専任教員数
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	



令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教員数
基本データ項目：	4-② 研究指導・補助教員数
点検・評価結果	
評点	1. 評価基準等を満たしている
コメント	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：前年度実績)

分類：	教員数
基本データ項目：	4-③ 若手教員採用比率
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	全学における若手教員採用比率が55%となり目標値(60%以上)に達していない。特に、教育・人文社会系部門、先進部門及び基盤部門においては、目標値に達していないので、引き続き若手教員採用比率を向上させるための取組が求められる。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	福井大学における教員の総合的な人事計画(令和4年9月21日～令和10年3月31日)の期間内での達成に向けて、引き続き若手教員採用比率向上の取組が求められる。
備考	

令和6年度

## データ分析による自己点検・評価シート

(基本データ：当該年度員数)

分類：	教員数
基本データ項目：	4-④ 女性教員比率
点検・評価結果	
評点	3. 評価基準等を満たしていない
コメント	全学における女性教員比率が 21.2%となり目標値 (22%以上) に達していない。特に、工学系部門及び先進部門においては、目標値に達していないので、引き続き女性教員比率を向上させるための取組が求められる。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	国立大学法人福井大学一般事業主行動計画(令和4年4月1日～令和9年3月31日)の期間内での達成に向けて、引き続き女性教員比率向上の取組が求められる。
備考	

## 5. 分析基本データ集

# 分析基本データ集 1 - ①志願者数・受験者数（春期）



年度	志願者数・受験者数			
	学部・研究科	学科・専攻	志願者数	受験者数
<input checked="" type="radio"/> 2024		▲		
<input type="radio"/> 2023				
<input type="radio"/> 2022	教育学部	学校教育課程	324	203
<input type="radio"/> 2021	医学部	医学科	964	361
<input type="radio"/> 2020	医学部	看護学科	159	126
<input type="radio"/> 2019	工学部	機械・システム工学科	690	373
<input type="radio"/> 2018	工学部	電気電子情報工学科	544	280
<input type="radio"/> 2017	工学部	建築・都市環境工学科	292	185
<input type="radio"/> 2016	工学部	物質・生命化学科	467	257
<input type="radio"/> 2015	工学部	応用物理学科	174	86
	国際地域学部	国際地域学科	237	111
	連合教職開発研究科	教職開発専攻	67	67
	医学系研究科	看護学専攻	9	9
	医学系研究科	統合先進医学専攻	17	17
	工学研究科	産業創成工学専攻	97	94
	工学研究科	安全社会基盤工学専攻	110	108
	工学研究科	知識社会基礎工学専攻	115	113
	工学研究科	総合創成工学専攻	10	10
	国際地域マネジメント研究科	国際地域マネジメント専攻	7	7
	<b>合計</b>		<b>4,283</b>	<b>2,407</b>

- 種別
- 学部
  - 大学院

- 入学時期
- 4月

目標値（過去5年間の平均）			
学部・研究科	学科・専攻	志願者数（過去5年平均）	受験者数（過去5年平均）
▲	▲		
教育学部	学校教育課程	409.2	270.8
医学部	医学科	719.8	333.8
医学部	看護学科	191.6	145.4
工学部	機械・システム工学科	552.6	311.6
工学部	電気電子情報工学科	496.6	288.2
工学部	建築・都市環境工学科	277.8	180.4
工学部	物質・生命化学科	373.4	229.4
工学部	応用物理学科	203.4	93.8
国際地域学部	国際地域学科	236.8	135.0
連合教職開発研究科	教職開発専攻	56.4	56.4
医学系研究科	看護学専攻	12.0	11.8
医学系研究科	統合先進医学専攻	16.2	16.2
工学研究科	産業創成工学専攻	105.3	104.8
工学研究科	安全社会基盤工学専攻	95.3	94.3
工学研究科	知識社会基礎工学専攻	108.8	107.5
工学研究科	総合創成工学専攻	14.4	14.4
国際地域マネジメント研究科	国際地域マネジメント専攻	7.0	6.8
	<b>合計</b>	<b>3883.0</b>	<b>2406.6</b>

※「志願者数（過去5年平均）」及び「受験者数（過去5年平均）」について、設置後5年未満の学部・研究科等においては、設置後の各年度実績の平均（5年未満の平均）により計算。

# 分析基本データ集 1 - ②入学定員充足率・平均入学定員充足率（春期）



年度	入学定員充足率・平均入学定員充足率				
	学部・研究科	入学定員	入学者数	入学定員充足率	平均入学定員充足率
● 2024	教育学部	100	103	103.0%	106.0%
○ 2023	学校教育課程	100	103	103.0%	106.0%
○ 2022	医学部	170	173	101.8%	101.6%
○ 2021	医学科	110	110	100.0%	100.0%
○ 2020	看護学科	60	63	105.0%	104.7%
○ 2019	工学部	525	546	104.0%	103.5%
○ 2018	機械・システム工学科	155	159	102.6%	104.5%
○ 2017	電気電子情報工学科	125	128	102.4%	102.9%
○ 2016	建築・都市環境工学科	60	65	108.3%	105.0%
○ 2015	物質・生命化学科	135	139	103.0%	100.4%
	応用物理学科	50	55	110.0%	108.0%
	国際地域学部	60	61	101.7%	104.3%
	国際地域学科	60	61	101.7%	104.3%
	合計	855	883	103.3%	103.5%

## 種別

● 学部

## 入学時期

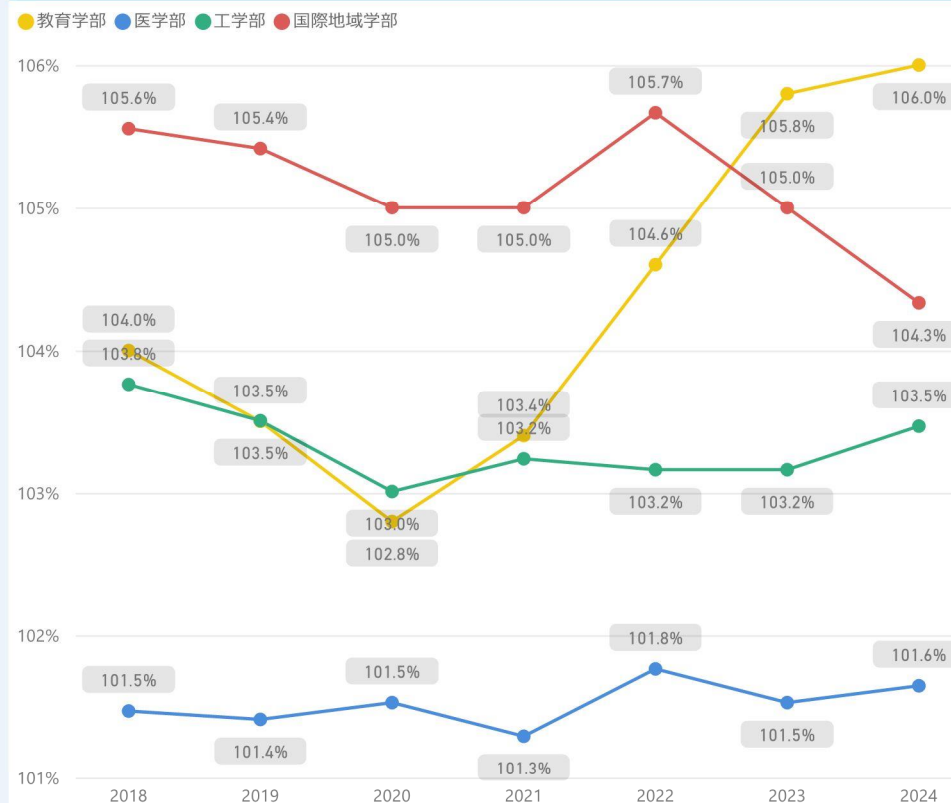
☑ 4月

## 目標値

入学定員充足率 **100%以上130%未満**

平均入学定員充足率※ **100%以上130%未満** ※当年度を含む過去5年の平均

## 【参考】平均入学定員充足率の推移（学部・研究科別）



## 年度

- 2024
- 2023
- 2022
- 2021
- 2020
- 2019
- 2018
- 2017
- 2016
- 2015

## 種別

- 大学院

## 入学時期

- 4月

## 入学定員充足率・平均入学定員充足率

学部・研究科	入学定員	入学者数	入学定員充足率	平均入学定員充足率
連合教職開発研究科	60	66	110.0%	101.3%
教職開発専攻	60	66	110.0%	101.3%
医学系研究科	37	26	70.3%	70.8%
看護学専攻	12	9	75.0%	83.3%
統合先進医学専攻	25	17	68.0%	64.8%
工学研究科	296	298	100.7%	106.0%
産業創成工学専攻	85	88	103.5%	112.2%
安全社会基盤工学専攻	84	97	115.5%	107.6%
知識社会基礎工学専攻	105	104	99.0%	110.4%
総合創成工学専攻	22	9	40.9%	58.2%
国際地域マネジメント研究科	7	6	85.7%	91.4%
国際地域マネジメント専攻	7	6	85.7%	91.4%
合計	400	396	99.0%	101.6%

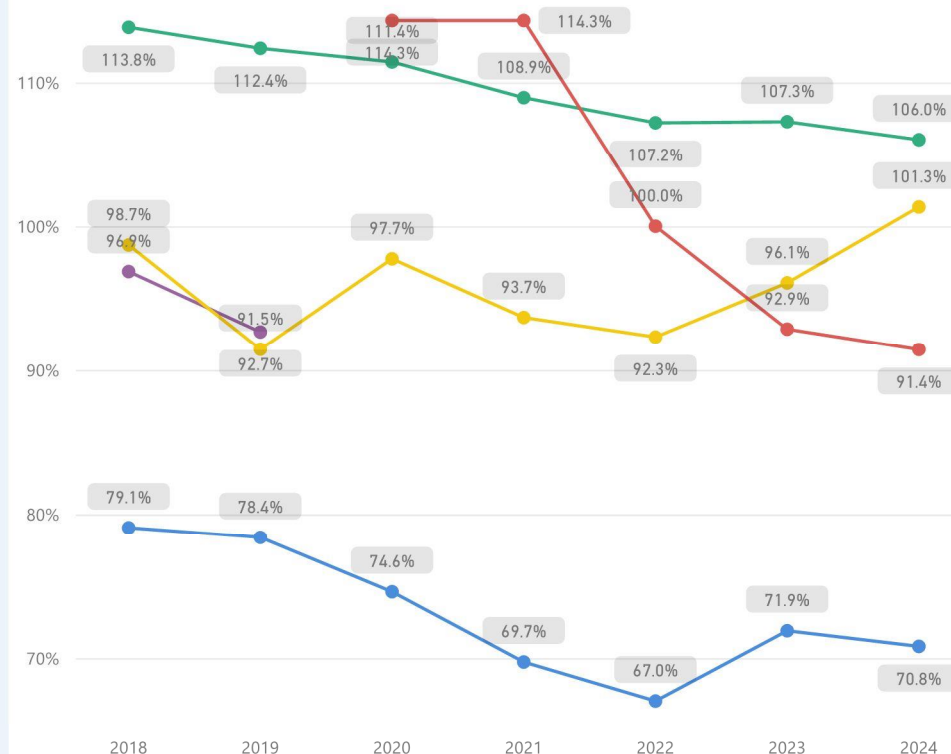
## 目標値

入学定員充足率 **100%以上130%未満**

平均入学定員充足率※ **100%以上130%未満** ※当年度を含む過去5年の平均

## 【参考】平均入学定員充足率の推移（学部・研究科別）

●教育学研究科 ●連合教職開発研究科 ●医学系研究科 ●工学研究科 ●国際地域マネジメント研究科



年度	収容定員充足率（学部・研究科、学科・専攻別）			
● 2024 ○ 2023 ○ 2022 ○ 2021	学部・研究科	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
	教育学部	400	442	110.5%
	学校教育課程	400	442	110.5%
	教育地域科学部		1	
	地域科学課程		1	
	医学部	925	952	102.9%
	医学科	685	700	102.2%
	看護学科	240	252	105.0%
	工学部	2180	2,373	108.9%
	機械・システム工学科	640	718	112.2%
	電気電子情報工学科	540	581	107.6%
	建築・都市環境工学科	260	279	107.3%
	物質・生命化学科	540	564	104.4%
	応用物理学科	200	231	115.5%
	国際地域学部	240	258	107.5%
	国際地域学科	240	258	107.5%
	合計	3745	4,026	107.5%

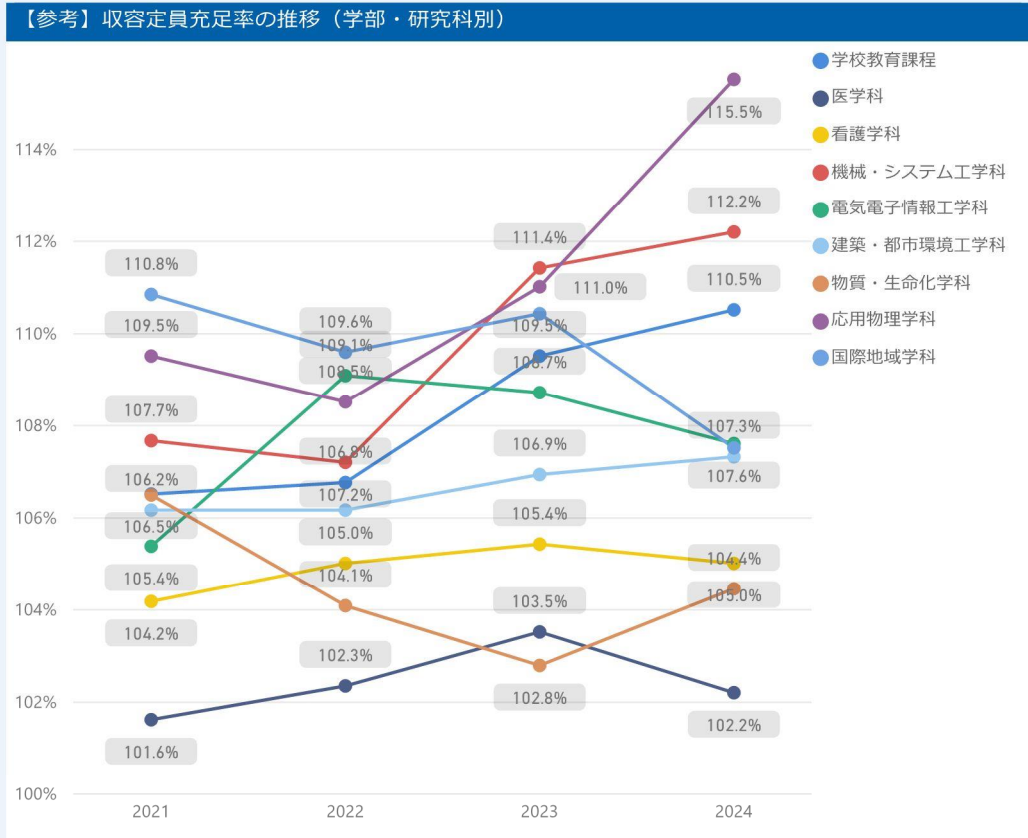
収容定員充足率（課程別）			
課程区分	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
学士課程	3745	4,026	107.5%

**目標値**

収容定員充足率

教育学部・国際地域学部・医学系研究科修士課程・国際地域マネジメント研究科：**80%以上**

医学部・工学部・連合教職開発研究科・医学系研究科博士課程・工学研究科：**90%以上**





年度	収容定員充足率（学部・研究科、学科・専攻別）			
● 2024 ○ 2023 ○ 2022 ○ 2021	学部・研究科	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
	連合教職開発研究科	120	121	100.8%
	教職開発専攻	120	121	100.8%
	医学系研究科	124	172	138.7%
	看護学専攻	24	29	120.8%
	統合先進医学専攻	100	143	143.0%
	工学研究科	593	658	111.0%
	産業創成工学専攻	170	187	110.0%
	安全社会基盤工学専攻	168	194	115.5%
	知識社会基礎工学専攻	189	207	109.5%
	総合創成工学専攻	66	70	106.1%
	国際地域マネジメント研究科	14	11	78.6%
	国際地域マネジメント専攻	14	11	78.6%
	合計	851	962	113.0%

収容定員充足率（課程別）			
課程区分	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
修士課程・博士前期課程	551	617	112.0%
専門職学位課程	134	132	98.5%
博士課程・博士後期課程	166	213	128.3%
合計	851	962	113.0%

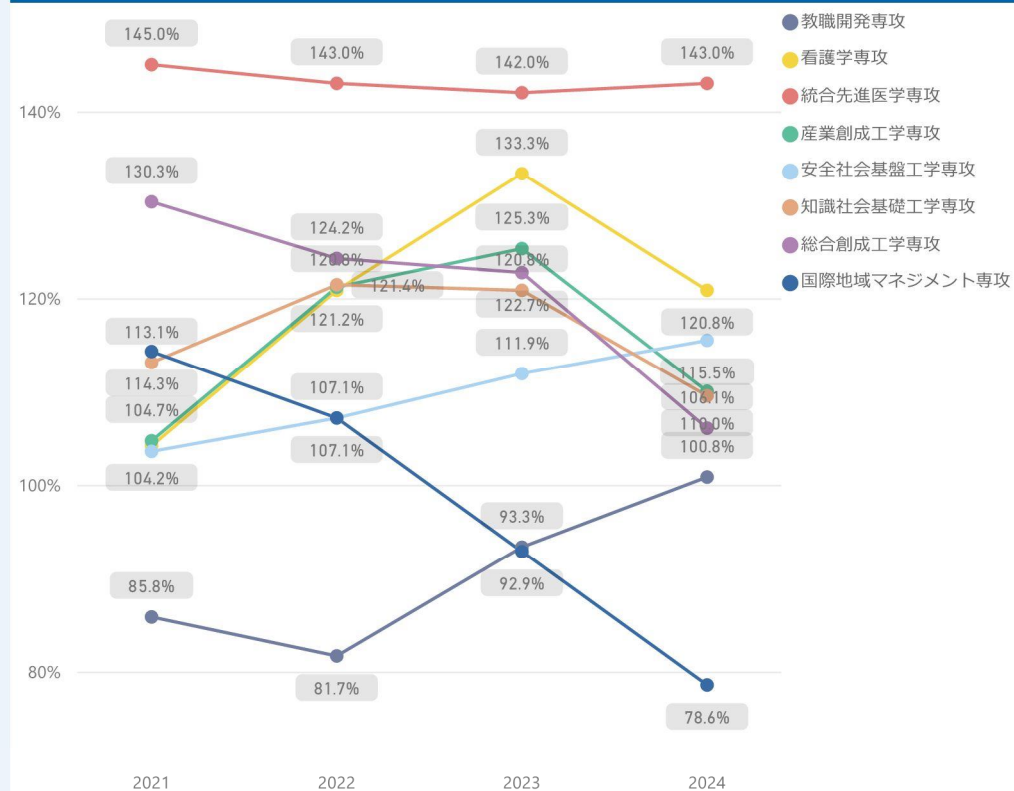
**目標値**

収容定員充足率

教育学部・国際地域学部・医学系研究科修士課程・国際地域マネジメント研究科：**80%以上**

医学部・工学部・連合教職開発研究科・医学系研究科博士課程・工学研究科：**90%以上**

【参考】収容定員充足率の推移（学部・研究科別）



# 分析基本データ集 1 - ④ 収容定員超過率【学部】

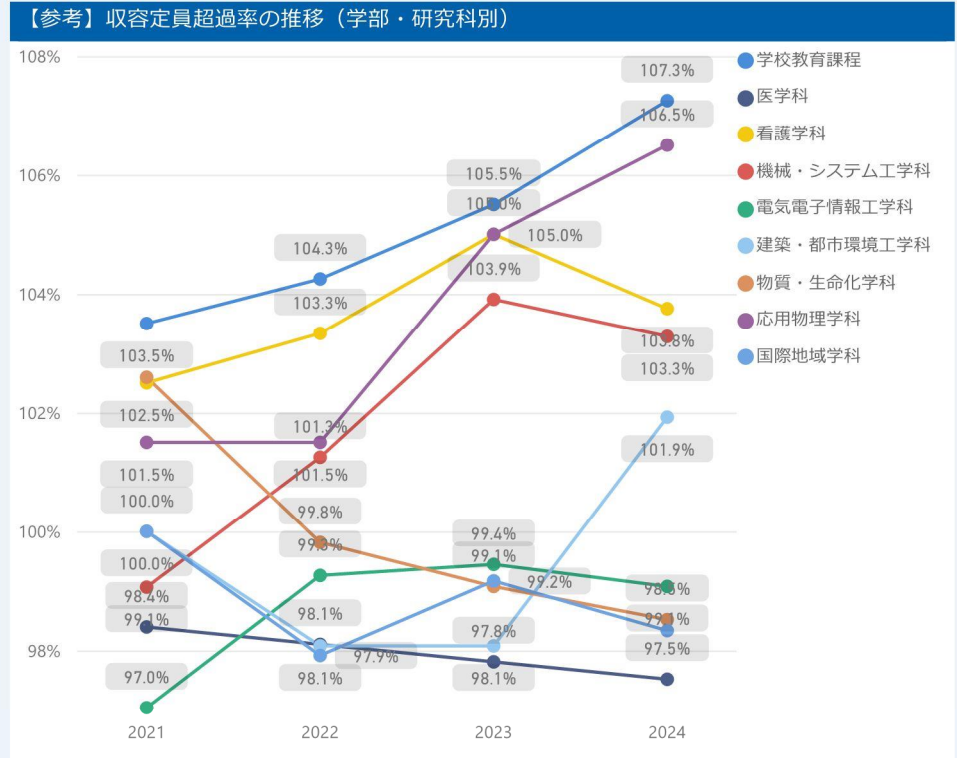


年度	収容定員超過率（学部・研究科、学科・専攻別）			
	学部・研究科	収容定員（人）	在学者数（人）	定員超過率（%）
● 2024	教育学部	400	442	107.3%
○ 2023	学校教育課程	400	442	107.3%
○ 2022	教育地域科学部		1	0.0%
○ 2021	地域科学課程		1	0.0%
	医学部	925	952	99.1%
	医学科	685	700	97.5%
	看護学科	240	252	103.8%
	工学部	2,180	2,373	101.2%
	機械・システム工学科	640	718	103.3%
	電気電子情報工学科	540	581	99.1%
	建築・都市環境工学科	260	279	101.9%
	物質・生命化学科	540	564	98.5%
	応用物理学科	200	231	106.5%
	国際地域学部	240	258	98.3%
	国際地域学科	240	258	98.3%
	合計	3,745	4,026	101.2%

※定員超過率算出に当たり、以下を在学者数から控除  
 国費留学生数、外国政府派遣留学生数、私費外国人留学生数（留学生のための特別コースに在籍する者）、  
 休学者数、留年者数（修業年限を超える在学期間が2年以内）

**目標値**  
 収容定員超過率 **110%未満**

収容定員超過率（課程別）			
課程区分	収容定員（人）	在学者数（人）	定員超過率（%）
学士課程	3,745	4,026	101.2%



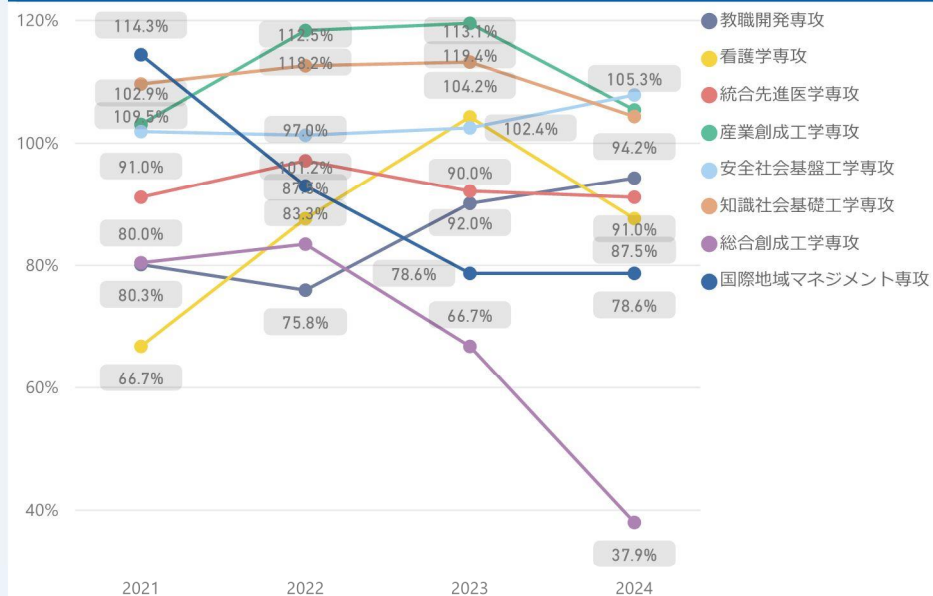
年度	収容定員超過率（学部・研究科、学科・専攻別）			
	学部・研究科	収容定員（人）	在学者数（人）	定員超過率（%）
● 2024	連合教職開発研究科	120	121	94.2%
○ 2023	教職開発専攻	120	121	94.2%
○ 2022	医学系研究科	124	172	90.3%
○ 2021	看護学専攻	24	29	87.5%
	統合先進医学専攻	100	143	91.0%
	工学研究科	593	658	98.1%
	産業創成工学専攻	170	187	105.3%
	安全社会基盤工学専攻	168	194	107.7%
	知識社会基礎工学専攻	189	207	104.2%
	総合創成工学専攻	66	70	37.9%
	国際地域マネジメント研究科	14	11	78.6%
	国際地域マネジメント専攻	14	11	78.6%
	合計	851	962	96.1%

※定員超過率算出に当たり、以下を在学者数から控除  
 国費留学生数、外国政府派遣留学生数、私費外国人留学生数（留学生のための特別コースに在籍する者）、  
 休学者数、留年者数（修業年限を超える在学期間が2年以内）

**目標値**  
 収容定員超過率 **110%未満**

収容定員超過率（課程別）			
課程区分	収容定員（人）	在学者数（人）	定員超過率（%）
修士課程・博士前期課程	551	617	104.9%
専門職学位課程	134	132	92.5%
博士課程・博士後期課程	166	213	69.9%
合計	851	962	96.1%

【参考】収容定員超過率の推移（学部・研究科別）



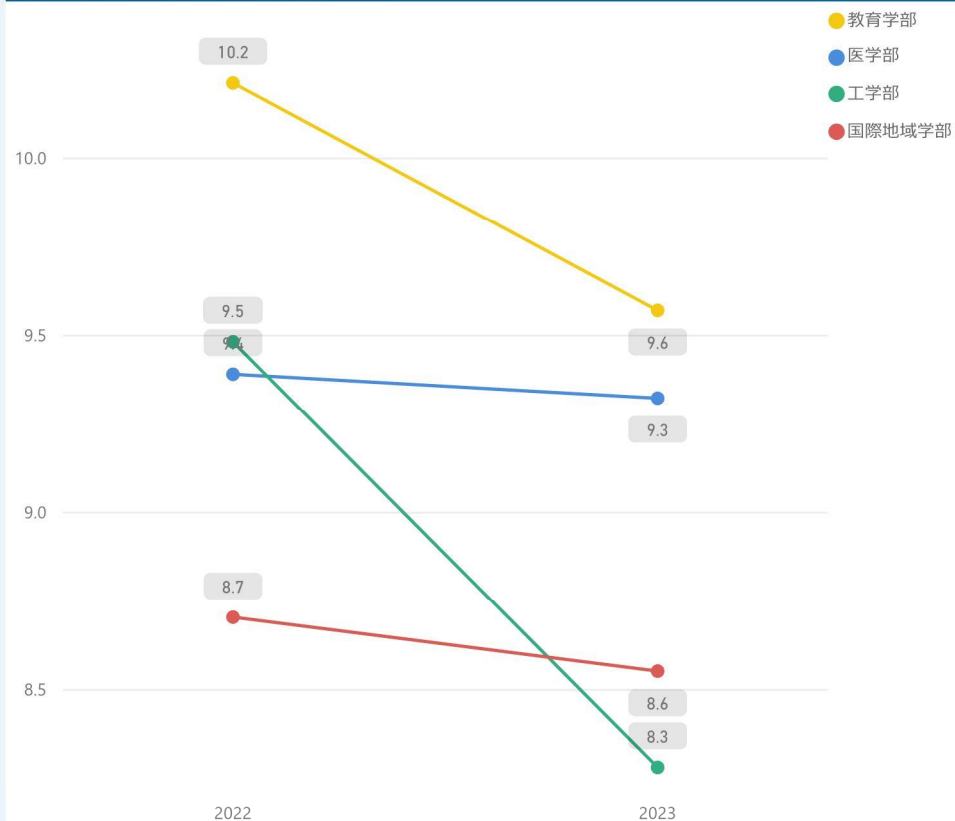
年度	授業外学修時間 (学部・研究科、学科・専攻別)			
	1年次	3年次	全体	
<input checked="" type="radio"/> 2023 <input type="radio"/> 2022	学部・研究科			
	教育学部	9.5	9.7	9.6
	学校教育課程	9.5	9.7	9.6
	医学部	7.9	10.9	9.3
	医学科	7.7	8.0	7.8
	看護学科	8.3	15.2	11.7
	工学部	8.0	8.6	8.3
	機械・システム工学科	7.7	6.8	7.3
	電気電子情報工学科	7.6	9.2	8.5
	建築・都市環境工学科	5.9	9.8	7.9
	物質・生命化学科	9.4	8.0	8.7
	応用物理学科	8.6	12.1	10.2
	国際地域学部	8.9	8.1	8.6
	国際地域学科	8.9	8.1	8.6
	全体	8.2	9.1	8.6

【参考】授業外学修時間の推移 (全体)

年度	授業外学修時間 (時間)
2023	8.6
2022	9.5

**目標値**  
 授業外学修時間  
 第3期末 **12.5** 時間より増

【参考】授業外学修時間の推移 (学部別)



年度	標準修業年限内卒業・修了率			
	卒業・修了者数	学生数計	標準修業年限内卒業・修了率	
● 2023 ○ 2022 ○ 2021	▲			
教育学部	91	100	91.0%	
医学部医学科	89	111	80.2%	
医学部看護学科	61	63	96.8%	
工学部	416	536	77.6%	
国際地域学部	52	62	83.9%	
連合教職開発研究科専門職学位課程（教職大学院の課程）	47	50	94.0%	
医学系研究科修士課程	5	9	55.6%	
医学系研究科博士課程	5	18	27.8%	
工学研究科博士前期課程	277	300	92.3%	
工学研究科博士後期課程	11	28	39.3%	
国際地域マネジメント研究科	5	5	100.0%	
合計	<b>1,059</b>	<b>1,282</b>	<b>82.6%</b>	

**目標値**

標準修業年限内卒業・修了率

教育学部・医学部・工学部・国際地域マネジメント研究科：**80%**

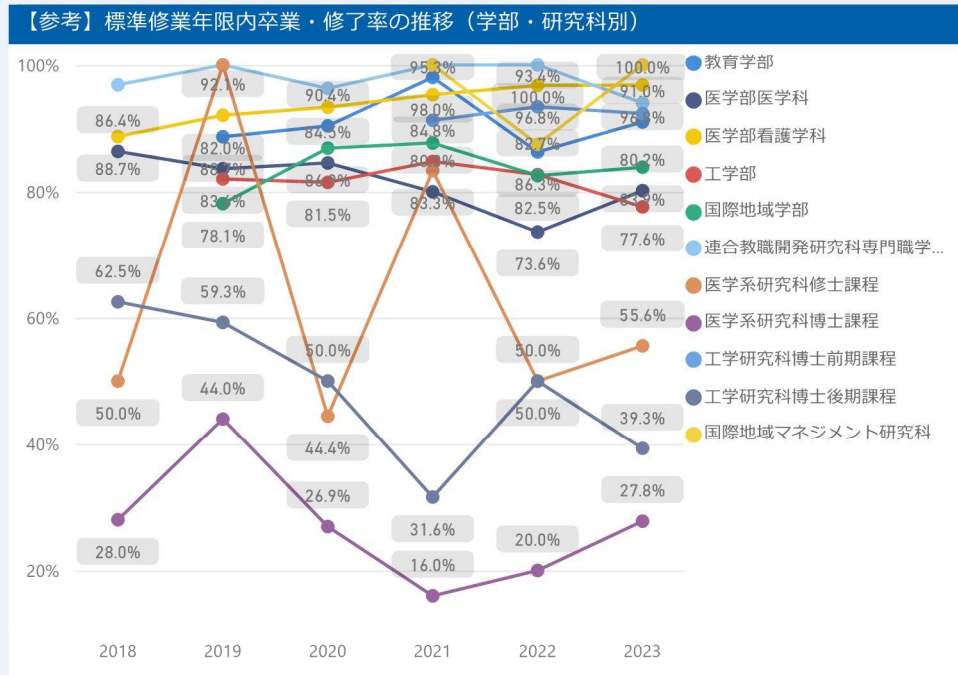
国際地域学部：**70%**

連合教職開発研究科：**85%**

工学研究科博士前期課程：**82.5%**

工学研究科博士後期課程：**50%**

医学系研究科：-



年度	標準修業年限×1.5年内卒業・修了率			
● 2023 ○ 2022 ○ 2021	教育研究上の基本組織	卒業・修了者数	学生数計	標準修業年限×1.5年内卒業・修了率
	▲			
	教育学部	101	102	99.0%
	医学部医学科	107	110	97.3%
	医学部看護学科	63	64	98.4%
	工学部	497	545	91.2%
	国際地域学部	62	65	95.4%
	連合教職開発研究科専門職学位課程（教職大学院の課程）	47	47	100.0%
	医学系研究科修士課程	4	4	100.0%
	医学系研究科博士課程	6	25	24.0%
	工学研究科博士前期課程	262	273	96.0%
	工学研究科博士後期課程	12	19	63.2%
	国際地域マネジメント研究科	8	8	100.0%
	合計	1,169	1,262	92.6%

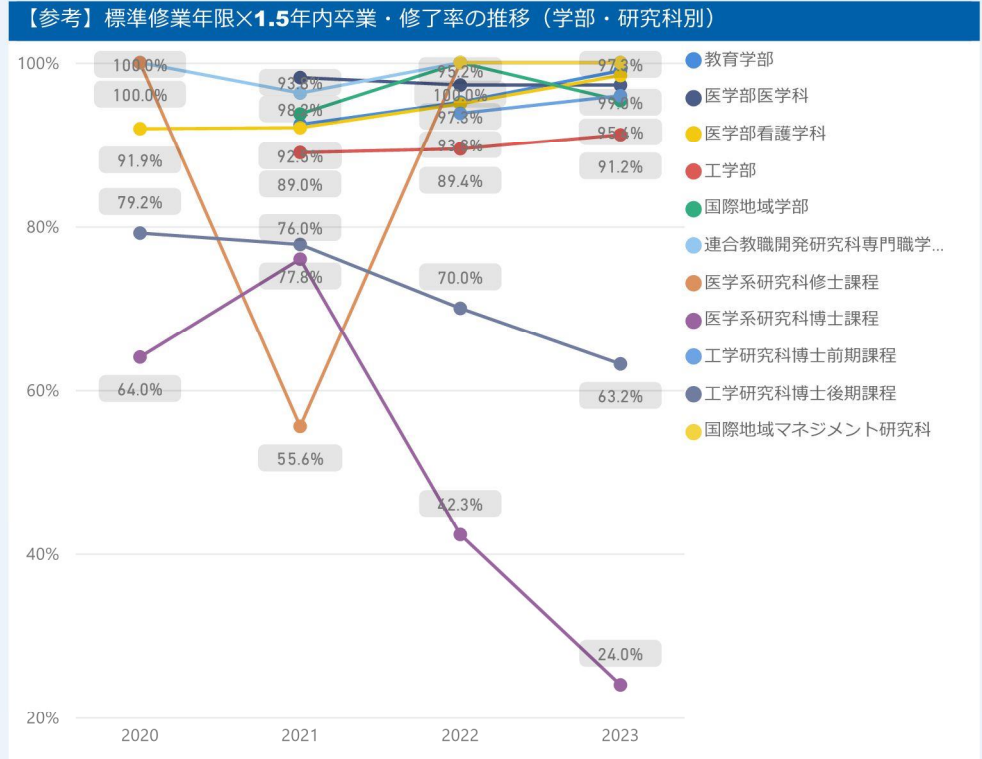
**目標値**

標準修業年限×1.5年内卒業・修了率

教育学部・医学部・工学部・国際地域学部： **90%以上**

連合教職開発研究科・医学系研究科修士課程・工学研究科博士前期課程・国際地域マネジメント研究科： **85%以上**

医学系研究科博士課程・工学研究科博士後期課程： **70%以上**



年度

- 2023
- 2022
- 2021
- 2020
- 2019

学位授与数（博士）

学部・研究科 ▲	2019	2020	2021	2022	2023	合計
医学系研究科	<b>15</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>100</b>
博士課程	14	13	14	21	19	<b>81</b>
論文博士	1	5	4	3	6	<b>19</b>
工学研究科	<b>29</b>	<b>8</b>	<b>21</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>95</b>
博士後期課程	25	5	17	16	16	<b>79</b>
論文博士	4	3	4	2	3	<b>16</b>
合計	<b>44</b>	<b>26</b>	<b>39</b>	<b>42</b>	<b>44</b>	<b>195</b>

目標値

前年度より増

年度	
<input checked="" type="radio"/>	2023
<input type="radio"/>	2022
<input type="radio"/>	2021

就職率（学部・研究科、学科・専攻別）	
学部・研究科	就職率
教育学部	100.0%
医学部	97.2%
工学部	99.6%
国際地域学部	100.0%
連合教職開発研究科	100.0%
医学系研究科	100.0%
工学研究科	99.7%
国際地域マネジメント研究科	100.0%
合計	<b>99.3%</b>

就職率（課程別）	
課程区分	就職率
学士課程	98.9%
修士課程・博士前期課程	100.0%
専門職学位課程	100.0%
博士課程・博士後期課程	97.1%
合計	<b>99.3%</b>

【参考】就職率の推移（全学）	
年度	就職率
2023	99.3%
2022	99.3%
2021	98.3%

**目標値**  
就職希望者に対する就職率  
**97.2%**





年度	科研費採択率（部門・領域別）						
	部門等	応募件数	採択件数	採択率	新規採択金額	教員数計	教員あたりの獲得額
● 2023	教育・人文社会系部門	40	12	30.0%	21,970,000	100	219,700
	教員養成領域	29	12	41.4%	21,970,000	74	296,892
○ 2022	総合グローバル領域	11				26	
	医学系部門	212	39	18.4%	116,870,000	310	377,000
	医学領域	117	24	20.5%	89,830,000	147	611,088
	看護学領域					27	
	医学領域（附属病院部）	95	15	15.8%	27,040,000	136	198,824
	工学系部門	90	22	24.4%	51,090,000	137	372,920
	工学領域	90	22	24.4%	51,090,000	137	372,920
	先進部門	23	9	39.1%	25,740,000	40	643,500
	附属国際原子力工学研究所	2	2	100.0%	2,860,000	9	317,778
	高エネルギー医学研究センター	3	1	33.3%	2,860,000	5	572,000
	遠赤外線開発研究センター	5	1	20.0%	1,820,000	11	165,455
	子どものこころの発達研究センター	12	5	41.7%	18,200,000	13	1,400,000
	繊維マテリアル研究センター	1				2	
	基盤部門	22	5	22.7%	8,580,000	36	238,333
	産学官連携本部	2	1	50.0%	910,000	4	227,500
	テニユアトラック推進本部		2		3,510,000	2	1,755,000
	カーボンニュートラル推進本部	5	1	20.0%	2,860,000	4	715,000
	ライフサイエンス支援センター	2				4	
	アドミッションセンター	1					
	高等教育推進センター					1	
	語学センター	3				7	
	キャリアセンター					1	
	データ科学・AI教育研究センター	1				1	
	地域創生推進本部	5	1	20.0%	1,300,000	7	185,714
	総合情報基盤センター	1				1	
	保健管理センター	2				4	
	その他		2		2,860,000		
	その他		2		2,860,000		
	合計	387	89	23.0%	227,110,000	623	364,543

**目標値**

科研費採択件数・内定金額（教員当たりの獲得額）  
 第3期平均値より増  
 教員当たりの平均獲得額： **429,428円**

**【参考】 科研費採択状況の推移（全学）**

年度	教員あたりの獲得額
2023	364,543
2022	413,072

年度	外部資金獲得状況 (部門・領域別)							
	部門等	受託研究件数	受託研究総額	共同研究件数	共同研究総額	教員数計	教員当たりの受託研究受入額	教員当たりの共同研究受入額
● 2023	教育・人文社会系部門	1	50,000	5	2,289,400	100	500	22,894
○ 2022	教員養成領域	1	50,000	2	1,190,400	74	676	16,086
○ 2021	総合グローバル領域			3	1,099,000	26		42,269
	医学系部門	90	181,350,008	43	34,572,200	310	585,000	111,523
	医学領域	48	127,328,508	31	26,486,200	147	866,180	180,178
	看護学領域					27		
	医学領域 (附属病院部)	42	54,021,500	12	8,086,000	136	397,217	59,456
	工学系部門	18	41,715,818	137	167,421,144	137	304,495	1,222,052
	工学領域	18	41,715,818	137	167,421,144	137	304,495	1,222,052
	先進部門	14	225,328,483	44	60,271,670	40	5,633,212	1,506,792
	附属国際原子力工学研究所	7	87,406,891	10	24,641,370	9	9,711,877	2,737,930
	高エネルギー医学研究センター	3	58,271,722	19	23,541,800	5	11,654,344	4,708,360
	遠赤外線開発研究センター	2	6,850,870	7	4,278,000	11	622,806	388,909
	子どものこころの発達研究センター			3	0	13		0
	繊維マテリアル研究センター	2	72,799,000	5	7,810,500	2	36,399,500	3,905,250
	基盤部門	10	136,298,287	42	59,180,600	36	3,786,064	1,643,906
	産学官連携本部	8	84,973,287	22	48,490,600	4	21,243,322	12,122,650
	テニュアトラック推進本部					2		
	カーボンニュートラル推進本部	2	51,325,000	15	9,182,000	4	12,831,250	2,295,500
	ライフサイエンス支援センター			1	0	4		0
	高等教育推進センター					1		
	語学センター					7		
	キャリアセンター					1		
	データ科学・AI教育研究センター					1		
	地域創生推進本部			4	1,508,000	7		215,429
	総合情報基盤センター					1		
	保健管理センター					4		
	合計	133	584,742,596	271	323,735,014	623	938,592	519,639

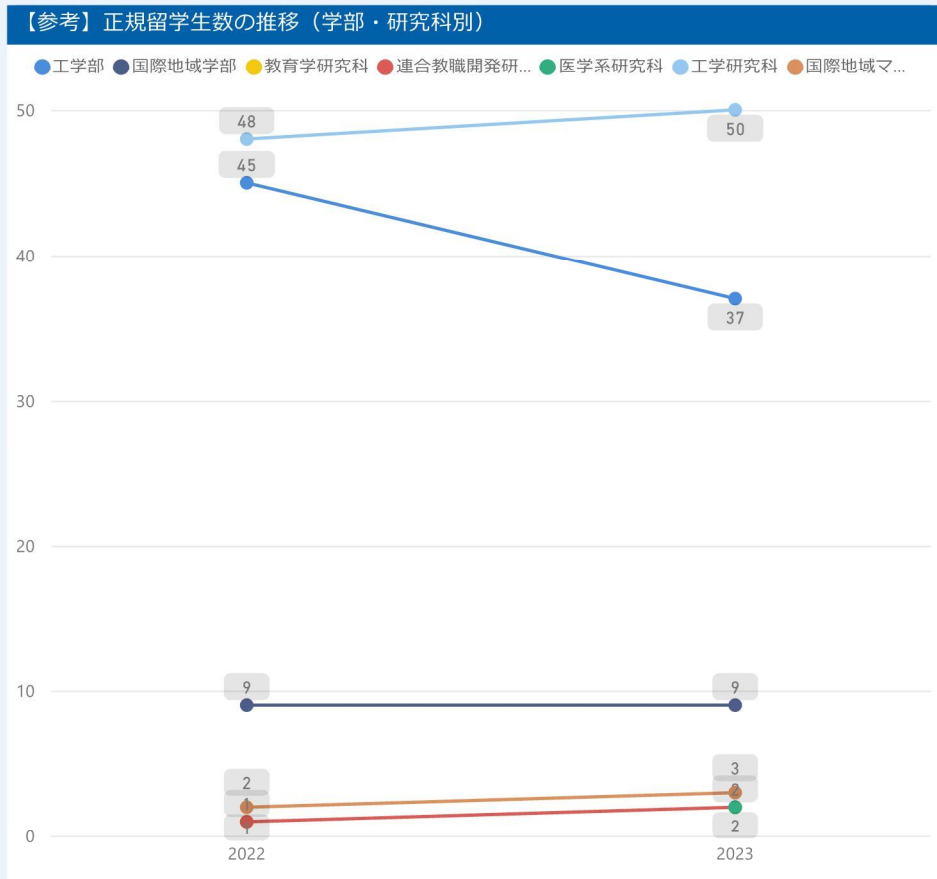
目標値
外部資金獲得状況 (教員当たりの受託・共同研究受入額) 第3期平均値より増 教員当たりの平均受託研究受入額 <b>709,444円</b> 教員当たりの平均共同研究受入額 <b>375,685円</b>

【参考】外部資金獲得状況の推移 (全学)		
年度	教員当たりの受託研究受入額	教員当たりの共同研究受入額
2023	938,592	519,639
2022	893,683	383,304
2021	632,674	291,908

年度	正規留学生数 (学部・研究科別)	
● 2023	学部・研究科	人数
○ 2022	工学部	37
	国際地域学部	9
	連合教職開発研究科	2
	医学系研究科	2
	工学研究科	50
	国際地域マネジメント研究科	3
	合計	103

【参考】正規留学生数 (地域別)	
地域名	正規留学生数
アジア	97
アフリカ	4
欧州	2
合計	103

**目標値**  
 正規留学生数  
 第3期の年平均 **118名**より増



【参考】正規留学生数の推移 (全学)	
年度	正規留学生数
2023	103
2022	106

年度	海外派遣学生数（学部・研究科別）	
	学部・研究科	人数
<input checked="" type="radio"/> 2023	教育学部	14
<input type="radio"/> 2022	医学部	10
<input type="radio"/> 2021	工学部	45
	国際地域学部	45
	連合教職開発研究科	2
	工学研究科	35
	合計	151

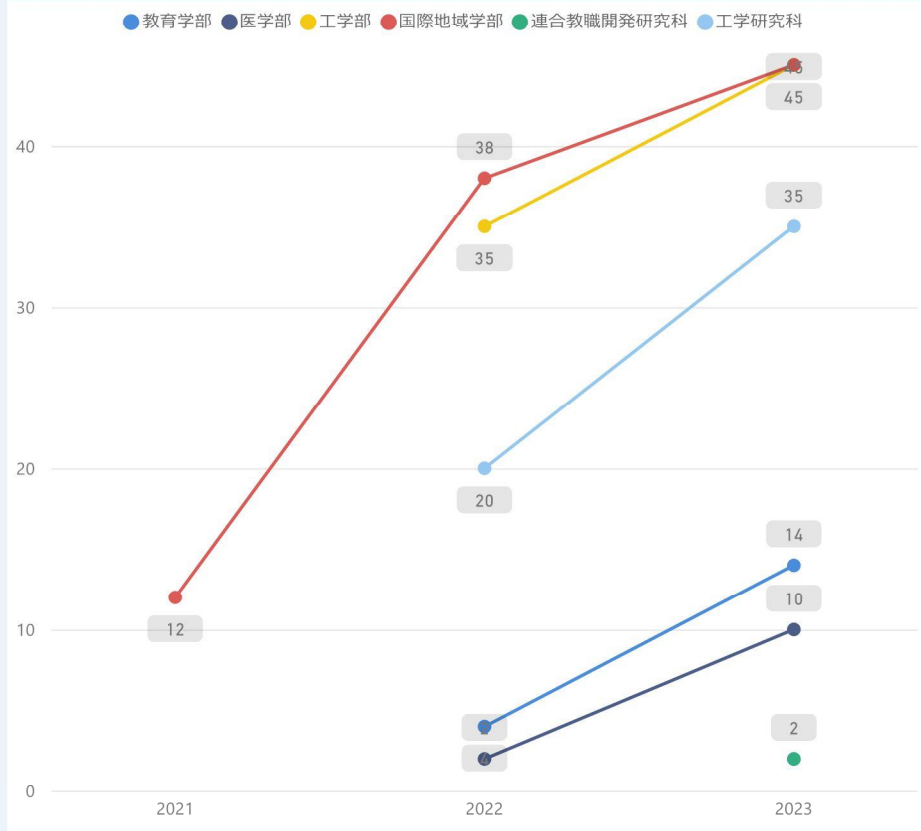
### 【参考】海外派遣学生数の推移（全学）

年度	人数
2023	151
2022	99
2021	12

【参考】海外派遣学生数（国別）	
地域名・国名	人数
アジア	102
タイ	52
マレーシア	9
シンガポール	2
フィリピン	4
韓国	17
ベトナム	1
カンボジア	2
マカオ	1
台湾	14
大洋州	21
オーストラリア	13
ニュージーランド	8
北米	21
カナダ	2
アメリカ合衆国	19
欧州	7
英国	3
ベルギー	1
ドイツ	2
ハンガリー	1
合計	151

**目標値**  
 海外派遣学生数  
 第3期の年平均 **171名**（JASSO海外留学支援制度の実績）より増

### 【参考】海外派遣学生数の推移（学部・研究科別）





年度

- 2024
- 2023
- 2022
- 2021

【学部】基幹教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	基幹教員計	うち教授
教育学部	学校教育課程	62	27
医学部	医学科	227	48
医学部	看護学科	28	8
工学部	機械・システム工学科	42	20
工学部	電気電子情報工学科	35	17
工学部	建築・都市環境工学科	18	7
工学部	物質・生命化学科	39	20
工学部	応用物理学科	23	12
国際地域学部	国際地域学科	23	9

【大学院】専任教員数（研究指導教員数、研究指導補助教員数）

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	専任教員計	研究指導教員計	うち教授	研究指導補助教員計	授業担当教員
医学系研究科	修士課程看護学専攻	18	9	8	9	0
医学系研究科	博士課程統合先進医学専攻	111	42	42	69	0
工学研究科	博士前期課程産業創成工学専攻	42	35	24	7	0
工学研究科	博士前期課程安全社会基盤工学専攻	50	46	21	4	0
工学研究科	博士前期課程知識社会基礎工学専攻	59	56	30	3	0
工学研究科	博士後期課程総合創成工学専攻	128	103	75	25	0

【専門職大学院】専任教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	専任教員計	うち教授	うち実務家教員	実務家教員のうちみなし専任	学部の専任を兼ねる教員
連合教職開発研究科	専門職学位課程(教職大学院の課程)教職開発専攻	25	15	13	2	17
国際地域マネジメント研究科	専門職学位課程国際地域マネジメント専攻	14	11	5	1	9

【学部】設置基準上の必置教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	うち教授
教育学部	学校教育課程	10	5
医学部	医学科	140	30
医学部	看護学科	12	6
工学部	機械・システム工学科	11	6
工学部	電気電子情報工学科	10	5
工学部	建築・都市環境工学科	8	4
工学部	物質・生命化学科	10	5
工学部	応用物理学科	8	4
国際地域学部	国際地域学科	12	6

【大学院】設置基準上の必置教員数（研究指導教員数、研究指導補助教員数）

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	研究指導教員	うち教授	研究指導補助教員
医学系研究科	修士課程看護学専攻	12	6	4	6
医学系研究科	博士課程統合先進医学専攻	60	30	20	30
工学研究科	博士前期課程産業創成工学専攻	13	13	9	0
工学研究科	博士前期課程安全社会基盤工学専攻	12	12	8	0
工学研究科	博士前期課程知識社会基礎工学専攻	14	14	9	0
工学研究科	博士後期課程総合創成工学専攻	8	8	6	0

【専門職大学院】設置基準上の必置教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	うち教授	うち実務家教員	みなし専任の上限	学部の専任を兼ねる教員の上限
連合教職開発研究科	専門職学位課程(教職大学院の課程)教職開発専攻	15	8	6	4	12
国際地域マネジメント研究科	専門職学位課程国際地域マネジメント専攻	11	6	4	3	9

年度	若手教員採用数、若手教員採用比率			
	部門等	若手教員採用数	教員採用数	若手教員採用比率
● 2023	教育・人文社会系部門	1	11	9.1%
○ 2022	教員養成領域	1	7	14.3%
○ 2021	総合グローバル領域	0	4	0.0%
	医学系部門	24	33	72.7%
	医学領域	9	13	69.2%
	看護学領域	3	4	75.0%
	医学領域（附属病院部）	12	16	75.0%
	工学系部門	5	7	71.4%
	工学領域	5	7	71.4%
	先進部門	1	4	25.0%
	附属国際原子力工学研究所	0	2	0.0%
	遠赤外領域開発研究センター	0	1	0.0%
	子どものこころの発達研究センター	1	1	100.0%
	基盤部門	2	5	40.0%
	カーボンニュートラル推進本部	2	4	50.0%
	地域創生推進本部	0	1	0.0%
	合計	33	60	55.0%

### 【参考】若手教員採用比率の推移（全学）

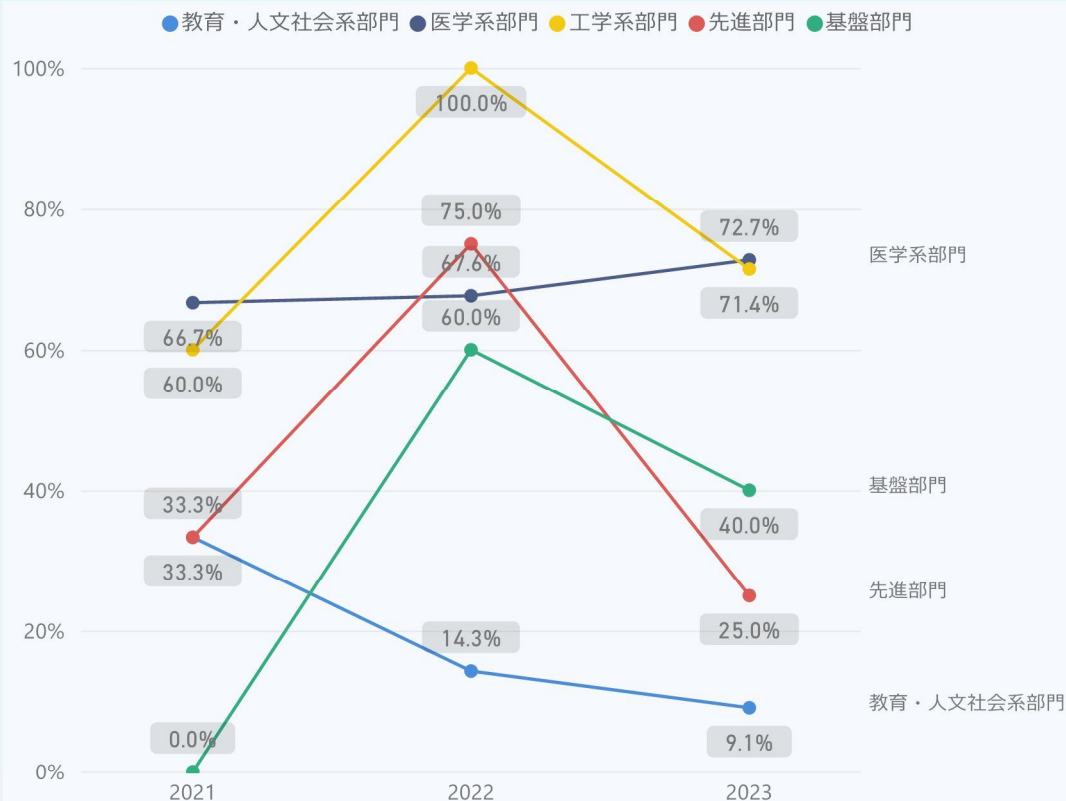
年度	若手教員採用比率
2023	55.0%
2022	60.8%
2021	56.4%

**目標値**

**若手教員採用比率 年平均60%以上**

※福井大学における教員の総合的な人事計画（令和4年9月21日～令和10年3月31日）  
 ※この計画における若手教員とは、当該年度の年度末における年齢が40歳未満の者をいう。

### 【参考】若手教員採用比率の推移（部門別）



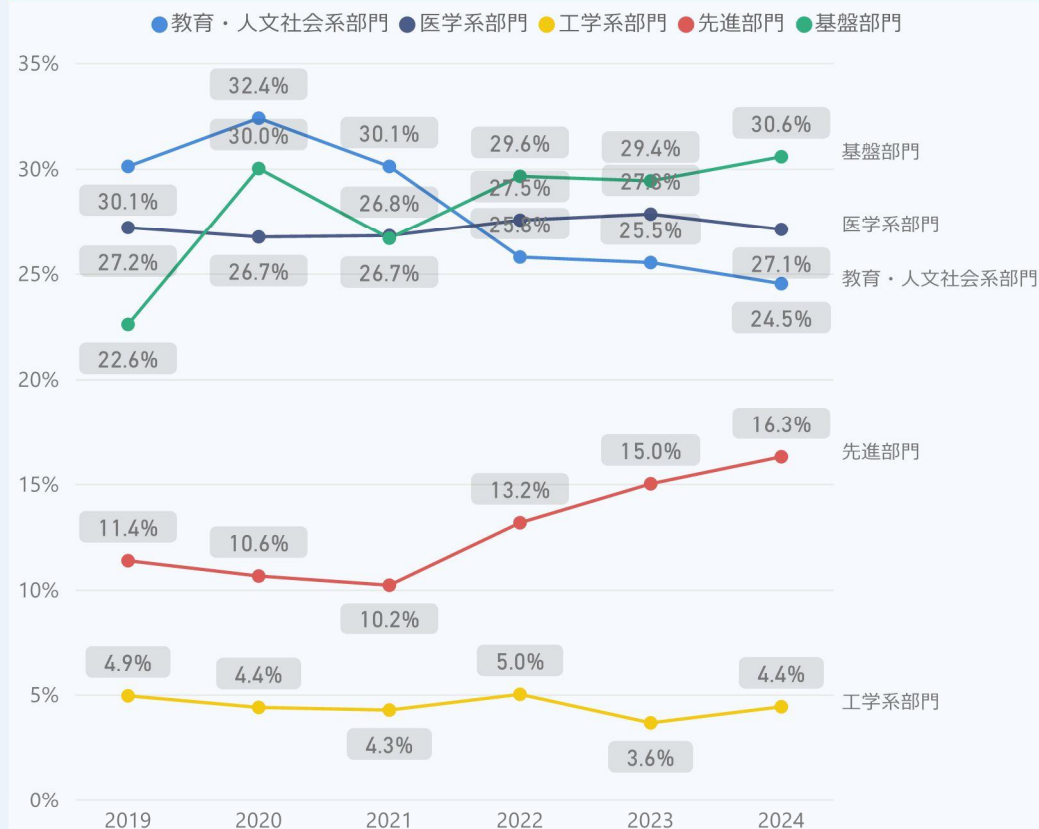
年度	男女別教員数、女性教員比率				
	部門等	男	女	合計	女性教員比率
● 2024	教育・人文社会系部門	77	25	102	24.5%
○ 2023	教員養成領域	59	17	76	22.4%
○ 2022	総合グローバル領域	18	8	26	30.8%
○ 2021	医学系部門	226	84	310	27.1%
○ 2020	医学領域	115	25	140	17.9%
○ 2019	看護学領域	5	23	28	82.1%
○ 2018	医学領域（附属病院部）	106	36	142	25.4%
○ 2017	工学系部門	130	6	136	4.4%
○ 2016	工学領域	130	6	136	4.4%
○ 2015	先進部門	36	7	43	16.3%
○ 2014	附属国際原子力工学研究所	12	0	12	0.0%
	高エネルギー医学研究センター	5	0	5	0.0%
	遠赤外線開発研究センター	11	1	12	8.3%
	子どもこころの発達研究センター	6	6	12	50.0%
	繊維マテリアル研究センター	2	0	2	0.0%
	<b>基盤部門</b>	<b>25</b>	<b>11</b>	<b>36</b>	<b>30.6%</b>
	産学官連携本部	3	0	3	0.0%
	テニュアトラック推進本部	2	0	2	0.0%
	カーボンニュートラル推進本部	5	1	6	16.7%
	ライフサイエンス支援センター	2	0	2	0.0%
	高等教育推進センター	2	0	2	0.0%
	キャリアセンター	0	1	1	100.0%
	データ科学・AI教育研究センター	1	0	1	0.0%
	グローバル・エンゲージメント推進本部	4	4	8	50.0%
	地域創生推進本部	4	2	6	33.3%
	総合情報基盤センター	1	0	1	0.0%
	保健管理センター	1	3	4	75.0%
	<b>合計</b>	<b>494</b>	<b>133</b>	<b>627</b>	<b>21.2%</b>

### 【参考】女性教員比率の推移（全学）

年度	女性教員比率
2024	21.2%
2023	21.4%
2022	21.3%
2021	21.0%
2020	21.7%
2019	21.2%

**目標値**  
**女性教員在職比率 22%以上**  
 ※国立大学法人福井大学一般事業主行動計画（令和4年4月1日～令和9年3月31日）

### 【参考】女性教員比率の推移（部門別）



## 6. 特徴データ一覧とその達成状況



## 特徴データ一覧とその達成状況

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況(目標・実績値)						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(1)-1	(1)-1-A	地域イノベーション関与指数	235超(第4期平均)	371	343					
				241	248	255	265	271	278	
(1)-2	(1)-2-B	ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト件数	30件以上(第4期合計)	17件	17件(累計34件)					
				5件	15件(累計20件)	15件(累計35件)	15件(累計50件)	10件(累計60件)	10件(累計70件)	
(1)-2	(1)-2-C	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円超(第4期合計)	6,230千円	13,433千円 (累計19,663千円)					
				1,500千円	5,000千円 (累計6,500千円)	5,000千円 (累計11,500千円)	3,000千円 (累計14,500千円)	3,000千円 (累計17,500千円)	2,000千円 (累計19,500千円)	
(1)-3	(1)-3-A	地域医療を指導できる総合診療・総合内科医の輩出人数	12名以上(第4期合計)	2名	1名(累計3名)					
				2名	2名(累計4名)	2名(累計6名)	2名(累計8名)	2名(累計10名)	2名(累計12名)	
(1)-3	(1)-3-B	感染症専門医の輩出人数	6名以上(第4期合計)	2名	1名(累計3名)					
				1名	1名(累計2名)	1名(累計3名)	1名(累計4名)	1名(累計5名)	1名(累計6名)	
(1)-3	(1)-3-C	①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数	①1回(毎年度) ②延べ180自治体(第4期合計)	1回	1回					
				①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	①年度内1回開催	
				31自治体	32自治体 (延べ63自治体)					
				②30自治体が参加	②30自治体(延べ60自治体)が参加	②30自治体(延べ90自治体)が参加	②30自治体(延べ120自治体)が参加	②30自治体(延べ150自治体)が参加	②30自治体(延べ180自治体)が参加	
(1)-4	(1)-4-A	令和9年度までに「未来協働プラットフォームふくい(※)」等での議論に基づくリカレントプログラムを複数実施 ※福井県版地域連携プラットフォーム	2件以上(第4期合計)	3件	7件 (累計10件)					
				-	-	1件以上	-	1件以上 (累計2件以上)	1件以上 (累計3件以上)	
(2)-1	(2)-1-B	就職率	97.2%(第4期平均)	99.3%	99.3%					◆
				97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	
(2)-2	(2)-2-A	高等学校における探究活動の支援回数	46回以上(R9年度)	95回	112回					
				30回	40回	46回	46回	46回以上	46回以上	
(2)-2	(2)-2-B	大学における探究プロジェクト開催回数	16回以上(R9年度)	14回	17回					
				12回	14回	16回	16回	16回以上	16回以上	
(2)-3	(2)-3-A	就職率	97.2%(第4期平均)	99.3%	99.3%					◆
				97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	
(3)-1	(3)-1-B	認定取得した教育プログラム履修者数	200名以上(R9年度)	331名	361名					
				300名	340名(対象科目の受入定員数)	340名(対象科目の受入定員数)	855名(入学定員数)	855名(入学定員数)	855名(入学定員数)	
(3)-2	(3)-2-B	多職種連携教育科目数	6科目超(第4期合計)	5科目	5科目					
				6科目	6科目	7科目以上	7科目以上	7科目以上	7科目以上	
(4)-1	(4)-1-B	修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))	150名以上(第4期平均)	-	196名					
				-	150名	150名	155名	155名	155名	
(4)-1	(4)-1-C	工学研究科博士前期課程修了生の就職率	97.2%(第4期平均)	100%	99.7%					
				97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	97.2%	
(4)-2	(4)-2-A	他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数	38回超(第4期合計)	13回	19回(累計32回)					
				8回	8回(累計16回)	10回(累計26回)	12回(累計38回)	12回(累計50回)	12回(累計62回)	
(4)-2	(4)-2-B	原子力関連分野への就職者数	52人(第4期合計)	11人	12人(累計23人)					
				10人	10人(累計20人)	10人(累計30人)	10人(累計40人)	10人(累計50人)	10人(累計60人)	
(5)-1	(5)-1-A	大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合	90%以上(R9年度)	77%	91%					
				77%以上	88%以上	88%以上	88%以上	90%以上	90%以上	
(5)-1	(5)-1-B	長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習(能力)評価に参画する立場の異なるステークホルダー数	6名以上(R9年度)	3名	3名					
				3名	3名	4名	5名	6名	6名	
(5)-1	(5)-1-C	「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の観点から、すべての科目(授業科目・研修科目)が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数(連携大学・自治体)	5拠点以上(R9年度末)	3拠点	4拠点					
				3拠点	4拠点以上	4拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	5拠点以上	
(5)-2	(5)-2-B	海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数	12件以上(第4期合計)	7件	3件(累計10件)					
				2件	2件(累計4件)	2件(累計6件)	2件(累計8件)	2件(累計10件)	2件(累計12件)	
(6)-1	(6)-1-C	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	25%以上(R9年度)	15.2%	15.3%					
				15%以上	15%以上	15%以上	20%以上	25%以上	25%以上	
(6)-2	(6)-2-B	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合	R5年度(医学科)超 (R9年度)	-	(医学科)64.2%					
				-	基準値を設定	64.3%以上	64.3%以上	64.3%以上	64.3%以上	
				R4年度(看護学科)超 (R9年度)	(看護学科)92.0%	92.7%				
				基準値を設定	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	92.1%以上	

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況(目標・実績値)						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(6)-3	(6)-3-A	地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数	R4の数値超 (R9年度)	3件	3件					
				基準値を設定	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	継続を含む4件以上	
(6)-3	(6)-3-B	地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)	R5年度(医学科(地域医療))超(R9年度)	-	(医学科) 地域医療/3.90 感染症/3.56					
			R5年度(医学科(感染症))超(R9年度)	-	基準値を設定	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	地域医療/3.91以上 感染症/3.57以上	
			R4年度(看護学科(地域医療))超(R9年度)		(看護学科) 地域医療/4.24 感染症/4.17	地域医療/4.11 感染症/4.11				
			R4年度(看護学科(感染症))超(R9年度)		基準値を設定	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上	地域医療/4.25以上 感染症/4.18以上
(7)-1	(7)-1-A	正規留学生数	118名超 (R9年度)	106名	103名					
				118名超	118名超	118名超	118名超	118名超	118名超	
(7)-1	(7)-1-B	正規留学生の満足度(正規留学生を対象としたアンケート)	R4年度超 (R9年度)	8.89/10点	9.22/10点					
				基準値を設定	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	8.9/10点以上	
(7)-2	(7)-2-B	英語による専門科目数	R4年度超 (毎年度)	368	385					
				基準値を設定	369以上	369以上	369以上	369以上	369以上	
(7)-2	(7)-2-C	②国際通用性を高める教育(海外留学等)の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標	②15%以上向上(第4期平均)	19%	20%					
				15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	15%以上向上	
(7)-3	(7)-3-A	海外教員研修留学生及び研修受講生指数	300以上(第4期平均)	305	447					
				200	300	300	300	350	350	
(7)-3	(7)-3-C	海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合	60%以上(第4期平均)	56%	56%					
				50%以上	55%以上	60%以上	60%以上	70%以上	80%以上	
(8)-1	(8)-1-A	遠赤外領域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数	227件以上(第4期合計)	46件	58件(累計104件)					
				40件	40件(累計80件)	40件(累計120件)	40件(累計160件)	34件(累計194件)	33件(累計227件)	
(8)-2	(8)-2-A	Science Citation Index (SCI) 論文数	130件(第4期合計)	21件	24件(累計45件)					
				23件	23件(累計46件)	23件(累計69件)	23件(累計92件)	20件(累計112件)	20件(累計132件)	
(8)-2	(8)-2-B	①試験研究炉の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②同研究分野の連携協定数	①2回以上(毎年度) ②3件以上(第4期合計)	7回	10回					
				年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	年間2回	
(8)-3	(8)-3-A	病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数	160件超(第4期合計)	48件	60件(累計108件)					
				30件	30件(累計60件)	30件(累計90件)	30件(累計120件)	30件(累計150件)	11件(累計161件)	
(8)-4	(8)-4-A	地域イノベーション創出指数	176超(第4期平均)	225	240					
				185	185	186	189	190	190	
(8)-5	(8)-5-A	当該分野における学術誌への英文論文掲載数	1,756件超(第4期合計)	312件	323件 (累計635件)					
				300件	300件 (累計600件)	300件 (累計900件)	300件 (累計1200件)	300件 (累計1500件)	257件 (累計1757件)	
(8)-5	(8)-5-B	当該分野における研究成果の具体化件数(特許出願数と特許の権利化件数の合計)	92件超(第4期合計)	16件	12件(累計28件)					
				16件	16件(累計32件)	16件(累計48件)	16件(累計64件)	16件(累計80件)	13件(累計93件)	
				(実績の内、特許出願数) 7件	7件					
(9)-1	(9)-1-A	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数	①-1 100時間以上(前期課程)(毎年度) ①-2 70時間以上(後期課程)(毎年度) ②150時間以上(毎年度)	①-1 105~136時間 ①-2 90~105時間	①-1 105~143時間 ①-2 102~125時間					
				①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	①-1 100時間以上 ①-2 70時間以上	
				②386~388時間	②386~392時間					
				②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	②150時間以上	
(9)-1	(9)-1-B	教育学部・教職大学院・医療等との連携件数	138件より20%以上増加(第4期合計) (166件以上)	34件	34件(累計68件)					
				30件	30件(累計60件)	30件(累計90件)	30件(累計120件)	30件(累計150件)	30件(累計180件)	
(9)-1	(9)-1-C	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数	18名超(第4期合計)	3名	3名(累計6名)					
				3名	3名(累計6名)	4名(累計10名)	4名(累計14名)	4名(累計18名)	2名(累計20名)	
(10)-1	(10)-1-A	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会の実施件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	①12回以上(毎年度) ②12回以上(毎年度)	22回	27回					
				12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	
				31回	21回					
(10)-2	(10)-2-A	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数	30回以上(毎年度)	48回	69回					
				30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	
(10)-2	(10)-2-B	卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数	3回以上(毎年度)	4プログラム	5プログラム					
				3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	3プログラム以上	

中期計画 番号	評価指標 番号	定量的な指標	目標値	達成状況（目標・実績値）						意欲的
				R4	R5	R6	R7	R8	R9	
(10)-3	(10)-3-A	臨床研究の新規実施件数	1,205件超（第4期合計）	226件	203件 （累計429件）					
				180件	185件 （累計402件）	190件	195件 （累計804件）	200件	205件 （累計1206件）	
(10)-3	(10)-3-B	不妊治療施設（新設施設）の治療件数	R4年度超（R9年度）	2007件	2413件					
				基準値を設定	2108件	2208件	2309件	2409件	2509件	
(10)-3	(10)-3-C	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	①50件以上（第4期合計） ②40件以上（第4期合計）	78件	82件（累計160件）					
				8件	30件（累計60件）	30件（累計90件）	30件（累計120件）	30件（累計150件）	30件（累計180件）	
				69件	62件（累計131件）					
(11)-1	(11)-1-A	教職協働によるプロジェクト件数	10件以上（第4期合計）	継続5、新規2	新規2件 （累計9件）					
				継続5、新規2	新規1件以上 （累計8件以上）	新規1件以上 （累計9件以上）	新規1件以上 （累計10件以上）	（累計10件以上）	（累計10件以上）	
(12)-1	(12)-1-A	共用設備の使用件数	52,639件超（第4期合計）  （文京：27,348件） （第4期合計）  （松岡：25,291件） （第4期合計）	10,745件	11,179件 （累計21,924件）					
				9,138件	9,138件 （累計18,276件）	9,138件 （累計27,414件）	9,138件 （累計36,552件）	9,138件 （累計45,690件）	9,138件 （累計54,828件）	
				5,825件	6,209件 （累計12,034件）					
				（文京：4,922件）	（文京：4,922件） （累計9,844件）	（文京：4,922件） （累計14,766）	（文京：4,922件） （累計19,688）	（文京：4,922件） （累計24,610）	（文京：4,922件） （累計29,532）	
(12)-2	(12)-2-A	エネルギー消費原単位値（原油換算値）の削減割合	0.038323kl/m <sup>3</sup> 以下 （R9年度）	0.03870kl/m <sup>3</sup>	0.03712kl/m <sup>3</sup>					
				0.04000kl/m <sup>3</sup> 以下	0.03950kl/m <sup>3</sup> 以下	0.03900kl/m <sup>3</sup> 以下	0.03830kl/m <sup>3</sup> 以下	0.03815kl/m <sup>3</sup> 以下	0.03800kl/m <sup>3</sup> 以下	
(13)-1	(13)-1-A	外部資金の獲得に関する新たな取組件数	2件以上（第4期合計）	1件	0件 （累計1件）					
				1件以上	1件以上 （累計2件以上）	-	-	1件以上 （累計3件以上）	-	
(13)-1	(13)-1-B	相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額	9,129千円超（第4期合計）	6,230千円	13,433千円 （累計19,663千円）					
				1,500千円	5,000千円 （累計6,500千円）	5,000千円 （累計11,500千円）	3,000千円 （累計14,500千円）	3,000千円 （累計17,500千円）	2,000千円 （累計19,500千円）	
(14)-2	(14)-2-A	connect Ufukuiの登録者数	2,000人以上（R9年度）	903人	1250人					
				500人以上	1000人以上	1500人以上	2000人以上	2000人以上	2000人以上	
(15)-1	(15)-1-A	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	60名（第4期合計）	21名	19名（累計40名）					
				10名	10名（累計20名）	10名（累計30名）	10名（累計40名）	10名（累計50名）	10名（累計60名）	
(15)-1	(15)-1-B	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数	3件以上（第4期合計）	2件	2件（累計4件）					
				1件	1件（累計2件）	1件（累計3件）	1件（累計4件）	1件（累計5件）	1件（累計6件）	
(15)-2	(15)-2-A	研修会の開催数	12回以上（第4期合計）	2回	2回（累計4回）					
				2回	2回（累計4回）	2回（累計6回）	2回（累計8回）	2回（累計10回）	2回（累計12回）	

※   ピンク色の塗りつぶしセルは、当該年度の実績が目標値が未達のもの。

※ 赤字は、数値の修正を行ったもの。